

# APO Letter

2023

Vol. 84

May

〈巻頭インタビュー〉

## ■ 薬局DXの今後と薬剤師の役割

株式会社カケハシ 代表取締役社長

中尾 豊 氏





## 薬局DXの今後と薬剤師の役割

### C O N T E N T S

● Expert Interview 1

薬局DXの今後と  
薬剤師の役割

オンライン服薬指導・  
オンライン健康相談の実際 7

2022年度 学会発表演題紹介 11  
第16回日本薬局学会学術総会

そうごう薬局グループ TOPICS 13



株式会社カケハシ 代表取締役社長

## 中尾 豊 氏

(なかお ゆたか)

### プロフィール

医療従事者の家系で生まれ育ち、製薬会社に入社。MRとして活動した後、2016年3月に株式会社カケハシを創業。  
経済産業省主催のジャパン・ヘルスケアビジネスコンテストやB Dash Ventures主催のB Dash Campなどで優勝。内閣府主催の未来投資会議 産官協議会「次世代ヘルスケア」に有識者として招聘。東京薬科大学 薬学部 客員准教授(2022年～)。



[インタビュアー]

林田 壮一郎  
Soichiro Hayashida

執行役員  
薬局事業本部 購買企画部長 兼  
ヘルスケア戦略企画室長

近年、薬局DXという言葉をよく耳にするようになってきました。DX(デジタル・トランスフォーメーション)とは、デジタル化により製品やサービス、ビジネスモデルに変革をもたらすことであり、薬局DXとは、薬局におけるデジタル技術の導入にとどまらず、デジタル化により薬剤師の働き方や患者さん、地域医療への関わり方を変革することを意味します。総合メディカルにおいても2018年より薬局体験アシスタント「Musubi」を順次導入し、業務の効率化と患者さんへの提供価値の向上に取り組んでいます。

今回は、「Musubi」を提供する株式会社カケハシの代表取締役社長である中尾豊さんに、薬局DXの現状と今後の展望、薬局・薬剤師に求められることなどについて、お話を伺いました。



## カケハシの理念と「Musubi」の開発

**林田** 私が中尾社長から初めて「Musubi」の説明を受けたのは2017年で、その際には機能もさることながら、中尾社長が「Musubi」などのデジタルテクノロジーを使って実現したいと考えている医療の将来像やビジョンに深く共感しました。改めてカケハシ設立の経緯や、中尾社長のビジョンについてお話ししていただけますか。

**中尾** 私は大学卒業後、製薬会社でMRとして大学病院を担当していましたので、毎日多くの論文を読み、教授、



部長、医局の先生方に医学的エビデンスに基づいて、治療戦略をどのように立てていくかという提案をしていました。当時多くの医師はこのように、外部の製薬会社から情報を得ていましたが、日々の活動の中で、患者さん個々の症例をベースに、医療の専門家同士がもつと議論できるような場がある方が良いのではないかと感じるようになりました。また患者さんの立場から、実際に服薬中に薬の効果や副作用などについて医療者から適切に介入していただけた方が安心感があるのではと、考えていました。その

ためには、患者さんからの情報収集と専門家同士の情報連携が課題であると考えようになり、これらを解決するためにカケハシを設立しました。カケハシという名前には、患者さんと医療の架け橋、医療者同士の架け橋、テクノロジーを用いて医療と未来をつなぐ架け橋になりたいという

願いが込められています。  
**林田** カケハシ設立の際には、まだ「Musubi」は完成していなかったのですね。

**中尾** まだ構想もありませんでした。ただし医療現場における課題は明確になっていたので、どのようなアプローチだとその課題を解決できるか、それをゼロベースで考えていました。カケハシは社会および医療、薬局業界で何が課題になっているか、その問いを見つけ、それを解決することを繰り返して続けています。

**林田** 総合メデイカルで「Musubi」の導入に踏み切ったのも、そこが大きかったですね。電子薬歴のシステムは世の中にたくさんありますが、何よりも現在の医療業界における課題を解決したいという、中尾社長のビジョンに共感しました。もちろん「Musubi」の機能も、まさしく薬局の現場が求めているものでした。それまでもいくつかのシステムを導入して試行錯誤していたのですが、業務の省力化・効率化と、患者さんへの指導の質を高めることを両立させることが難しい状況でした。お話を聞いたとき、これは二兎を追うことができるのではないかと、省力化・効率化と質の向上の両方を実現できるのではないかと感じました。

いくつかの薬局で試験的に導入することから始めましたが、導入した店

舗に勤務していた薬剤師が転勤することになり、「転勤先の店舗には「Musubi」はありませんか。ないと困ります。」と言われ、現場にとってなくてはならないものだ、改めて実感しました。

**中尾** 「Musubi」の開発にあたってはカケハシ創業前後で400名程度の薬局薬剤師の方々と議論を重ねてきましたが、それが評価につながったのだと思います。

**林田** 「Musubi」では服薬指導時に画面をタップすると、その内容がSOAP方式で薬歴に自動記載され、薬歴記載に関わる業務は大幅に効率化されました。また服薬指導においてもサジェスト機能を利用することで、多くの患者さんに安定して質の高い服薬指導を行うことができるようになりました。サジェスト機能については便利ではあるものの、新人の薬剤師が勉強しなくなるのでは、という懸念もありましたが、実際にはこの機能を体験することでより深い学習に繋がっています。一方ベテランの薬剤師はたくさん経験値を持っていますが、その足りない部分を補うことができるシステムであり、同時に薬剤師がこれまでの経験で得た指導内容をサジェスト機能に反映させることで、システムも進化していきます。つまり、薬剤師の

「知の共有」が図れるという点も「Musubi」の大きなメリットだと考えています。

**中尾** 患者さんにとっては、総合メデイカルさんのどこの薬局に行っても

一定の価値が得られるほうがメリットは大きいと思います。そのために経験豊富な薬剤師の知識を共有できる仕組みは必要であると、当初から考えていました。

## 薬局DXで薬剤師の役割はどのように変わるか

**林田** 「Musubi」のようなシステムが薬局に導入されることで、薬局と薬剤師の役割や患者さんに提供する価値が変容していくことが薬局DXの意味合いだと思うのですが、中尾社長は厚労省のワーキンググループで、「点から線へ、線から面へ」というキーワードをお話しされていた。このキーワードについて、詳しくご説明していただけますか。

**中尾** 点の強化とは、患者さん来局時の服薬指導の質の向上や、薬剤師の方の薬歴記入などの業務の効率化、線の強化とはその後の患者さんのフォローアップ、面の強化とは薬局も含めた医療機関同士の連携を意味しています（図）。厚労省でこのお話をしたのは2022年の3月ですが、ただその頃と比べて特にChat GPT<sup>※</sup>などに代表されるAIテクノロジー

が急速に進化しています。例えば線の強化についても、収集した情報に基づいて薬剤師がフォローアップするのではなく、患者さん自らがAIに問いかけて情報を得るということが日常となるかもしれません。そのような時代となったときには、薬剤師としてはAIの回答が本当に正しいのかを薬学的知見に基づいて検証し、患者さんが抱えている不安感を払拭することで、より信頼を得ていくことが求められます。

**林田** 面の強化についてですが、薬局においては今後、地域連携がますます重要になってきます。薬局DXの進行に伴い、地域連携の在り方はどのようなになっていくとお考えでしょうか。

**中尾** 「Musubi」で現在実現できていることは、患者さんの情報収集と

図. 薬局業務の進化



「点の強化」「線の強化」「面の強化」についての概念図。現在はさらに状況が変わってきているという。

(厚生労働省 第2回薬局薬剤師の業務及び薬局の機能に関するワーキンググループにおける提出資料より一部抜粋)



服薬指導などのコミュニケーションの強化です。そこから進んで、まず医師との連携を考えたときに、どのようにして医師が求めている情報を適切なタイミングで提供するかと考えると、かなり難しい課題です。薬局それぞれの地域特性や提携している病院、クリニックなどによって事情はさまざまだと思いますので、全



国一律のシステムを構築することは難しいかもしれません。そのような時に現場の管理薬剤師やエリアマネージャーの戦略設計が重要になってくると考えます。

**林田** その通りですね。医師のニーズは全国一律ではありませんし、薬局に来られる患者さん、家族構成もさまざまですので、臨機応変な対応が求められます。地域、薬局単位での戦略設計を考えたときに、まず薬剤師のパフォーマンスを正しく評価することが求められます。これまでは薬局店舗単位での評価でしたが、Musubi Insight という機能を使うことで、本部やエリアマネージャーなどが薬剤師個人のパフォーマンスを見ることができます。それが正しい評価と個人のモチベーション向上につながる、それぞれの地域、薬局における臨機応変な対応が実現すると考えています。

また、「Musubi」はセキュリティを担保した上で外に持ち出すことも可能ですので、在宅においても同行の医師とその場でさまざまなやり取りができ、報告書もすぐに作成することができます。同様に多職種でのカンファレンスにおいても「Musubi」は非常に有用ですね。**中尾** さらに進んで地域での連携を考えると、連携先は医療機関だけで

うに患者さんに伝えるか。これは、企業として早急に取り組むべきことだと思っています。

**林田** まさしくその通りですね。オンライン服薬指導が当たり前になった時に、店舗に行けばいつもの薬剤師が対応しますというこれまでの関係がなくなります。先ほど AI のお話もありましたが、AI で調べれば

## 信頼関係の構築がますます重要に

調べるほどおそらく新たな疑問も出てくると思います。その時にさまざまな領域での専門性を持った薬剤師が全国に点在していれば、距離に関係なく、専門的な知見を患者さんは求めると思います。今後は薬剤師の専門性を向上させるための教育も非常に需要だと考えています。

**中尾** 今後、AI などのテクノロジーがさらに進化して専門家としてのアドバイスも提供することが可能な時代になってきたときに、薬剤師の価値とは何なのか、しっかり考えておく必要があると思っています。最終的には患者さんや連携先の医療従事者としてしっかりと信頼関係を構築しておくことに尽きるのではないで

しょうか。例えば AI から、こういう副作用に気をつけてくださいという情報があった時に、服薬を続けるべきかやめるべきかの最終判断は、もちろん患者さんご自身ではできません。患者さんが求めているものは、専門家としての合理的な判断だけではなく、感情面に寄り添ったアドバ

はなく、例えば地域のスーパーやスポーツジムなどでも良いと思います。薬歴を分析して、ある薬局では糖尿病の患者さんが多いということが分かったとすると、スーパーに依頼して緑黄色野菜や青魚などを多くおいてもらうといったことができれば、地域全体でのトータルヘルスケアにおいて、薬局が中心的な役割を果たすことができます。

※ Chat GPT (Chat Generative Pre-trained Transformer) : アメリカの人工知能研究開発機関「OpenAI」により開発されたチャットサービス。ユーザーが入力した質問に対して、まるで人間のように自然な対話形式で AI が回答する。

## オンライン服薬指導における薬剤師の役割

緊の課題としてあります。

**林田** 地域での連携と同時に、総合メディカルにおいては、オンライン服薬指導の事例も多くなってきています。このような場合、薬剤師に求められる資質はどのようなことだとお考えですか。

**中尾** 薬局でのテクノロジーの進展に伴い地域連携が進む一方で、オンライン服薬指導などにより距離の概念が今後、非常に希薄になってきます。そのようになってきたときに薬剤師として、専門領域を強化することが喫

薬局の店頭には「全国どの医療機関の処方箋でも受け付けます」という掲示がありますが、患者さんは「どの薬局も一緒です」と受け取ってしまいかねません。例えば「私は糖尿病の専門家です。GLP-1、SGLT-2 を飲んでいる方は相談してください」のように、セグメントを絞って開示すると、全国からオンラインで相談がくるのではないでしょう。薬局単位ではなく個々の薬剤師の専門性を上げて、それをどのよ



先ほどのオンライン服薬指導のお話でも、患者さんとしてしっかりと関係性、信頼関係が構築できていれば、たとえその薬剤師が転勤になったとしても、オンラインで繋がりを保つこともできます。

**中尾** これまでお付き合いをさせていただいて、総合メディカルは薬局だけで終わろうとしているように私は私には見えません。医療全体を見据えた上で薬局はどうあるべきかと、かなり俯瞰した形で薬局のあり方を考えられる企業だといつも感じています。あるべき姿は何かという思想のもとにオペレーションをゼロベースで再設計していくことにチャレンジできる企業です。今後も一緒に新

しい医療体系を再設計していきたい、特に点だけでなく線とか面まで価値が作れたらと心から願っています。

**林田** 私は中尾社長の思想やビジョンに共感して「Musubi」の導入に踏み切りました。今や全国の人が Musubi を通して中尾社長の思想に触れています。社会から必要とされる薬局となり、生き残るためにも、カケハシという社名に込められたビジョンを一つずつ実現していきたいと思っています。

本日はどうも、ありがとうございます。

**中尾** ありがとうございます。

(本インタビューは2023年3月に実施されました)



# オンライン服薬指導・オンライン健康相談の実際

2020年より可能となったオンライン服薬指導については、その後も見直しが行われ、2022年からは初回からオンライン服薬指導が実施可能となるなど、ますます広がりを見せています。そうとう薬局グループでも、オンライン服薬指導を実施する薬局が増えており、最近では服薬指導だけでなく、健康相談会もオンラインで実施する事例も出てきています。ここではそのような3つの店舗の取り組みを紹介します。

## 事例① オンライン服薬指導

### そうとう薬局 町田薬師台店

そうとう薬局 町田薬師台店は医療モール「薬師台メディカルTERRACE」の中にあり、ここには総合メディカルが開業支援に携わった「薬師台おはなぽっぽクリニック」も開業されています。クリニック院長である野口泰芳先生と、町田薬師台店の寺田武司薬局長に、クリニックと薬局の連携の在り方や、オンライン診療、オンライン服薬指導について、お話を伺いました。



薬師台メディカルTERRACEの中にはクリニック、薬局の他に歯科、接骨院、介護相談所、デイサービスが開業しています。



「みどりのちからで地域とみんなを健康に!」をコンセプトに緑あふれる環境の中で、さまざまなイベントを開催しています。



そうとう薬局 町田薬師台店  
東京都 町田市薬師台1丁目25-12  
TEL : 042-860-5181  
FAX : 042-860-5182  
(開局日)  
月～土(祝日を除く)  
(開局時間)  
月、火、木、金 9:00～19:00  
水 9:00～17:00、土 9:00～13:00  
※原則、毎月第3水曜日に薬剤師による薬と健康の相談会実施

## オンライン診療・服薬指導と地域連携

**野口** オンライン診療のきっかけとなったのは新型コロナウイルスでしたね。まず、新型コロナウイルスへの対応についてはそうとう薬局さんにとってもお世話になりました。当クリニックでもワクチン接種にあたっては多くの委託を受けており、多い時には1日に100人を超える方に接種をする必要があったのですが、その際にそうとう薬局さんには患者さんの誘導などをお手伝いいただきました。また接種に来られる方も普段から薬局を利用されている方が多かったため、そういった意味でも安心してワクチン接種を受けることができたのではないかと感じています。それも1回ではなく、何カ月にもわたってご協力いただき、まさか薬局でここまで手伝ってくれるとは思わなかったのですが、今でも本当にありがたくなっています。

**寺田** ワクチンについては私の赴任前でしたが、前任の薬局長からも話を聞いて、クリニックとの連携がそこまで密に行われていることにとても驚きました。薬局としても貴重な体験をさせてもらったのではないかと思います。

**野口** そうですね、全国的に見てもレアなケースではないかと思っています。またコロナ時の発熱外来では、患者さんとの接触を最小限にして診療しないといけないのですが、その究極のスタイルがオンライン診療でした。薬局としても慣れないところはあったかと思うのですが、地域の診療が止まらな

いようにと、オンライン服薬指導もいち早く取り入れていただきました。**寺田** 確かに最初は戸惑いもあったのですが、そうとう薬局としてもコロナをきっかけに新しい取り組みをスタートさせることができて、良かったのではないかと思います。実際にオンライン服薬指導を開始して、患者さんに接触しないので感染リスクを避けることができる、ひとりの患者さんに時間を

十分にとることができる、などのメリットを感じています。また患者さんもお自宅のプライベートな空間でお話していただけるので、安心感にもつながっているのではないかと感じます。一方で、画面には患者さんのご自宅が映るので、薬局の中で他の人に見えないように配慮する必要がありますし、また服薬指導時には患者さんのお手元に薬がないので、説明が少し伝わりづらい面があるかと思っています。

**野口** オンライン診療においても、患者さんのちょっとした表情の変化などに気づきにくいというところは確かにありますね。ただオンラインではありませんが、訪問診療においても、そうとう薬局はかかりつけ薬局として、密に連携を図りながら対応していただいています。

**寺田** 訪問診療における連携については、クリニックでもともと使用されていたSNSサービスが役に立っています。招待者のみが閲覧、書き込みができるサービスで、医師、薬剤師、看護師などがリアルタイムで意見交換ができるため、残薬の報告や処方依頼だけでなく、患者さんの状態も知ることができます。

**野口** そういったツールを利

用した連携ももちろんですが、やはり同じ医療モールの中に入っていることで、常に見えぬ連携をとれていることが大きいですね。治療だけではなく、地域の人たちが何を求めているかをお互いに常に意識していることで、認知症カフェや音楽祭など、さまざまなイベントにも協力いただいています。

**寺田** 私もまだこちらの薬局に着任して日が浅いのですが、スタッフ同士のコミュニケーションがとても密であることに驚いています。

**野口** 地域連携においては高齢者医療にスポットがあたりがちですが、この地域では子育て世代も増えてきています。高齢者のみならず、今後は子供たちのために何ができるかも一緒に考えていきたいですね。

**寺田** 確かにクリニックとの連携はかけさまでスムーズにできていますが、地域との結びつきはまだ少ないので、今後は薬局の業務以外の部分でも連携できるように頑張りたいと思っています。

また一方でオンライン服薬指導についてはこれからも増えていくことになりませんが、本場に必要としているのは高齢者の患者さんですので、高齢の方々に対するインフラの整備や機器の使い方のレクチャーなども今後の課題かと考えます。

本日はどうも、ありがとうございました。

**野口** ありがとうございました。



# そごう薬局 横濱ゲートタワー店



そごう薬局 横濱ゲートタワー店  
神奈川県 横浜市西区高島1丁目 2-5  
横濱ゲートタワー 2 階  
TEL : 045-232-4641  
FAX : 045-232-4642  
(開局日) 月～土 (祝日を除く)  
(開局時間) 月、火、木、金 9:00～19:00  
水 10:00～19:00、土 9:00～18:00



そごう薬局  
横濱ゲートタワー店  
管理薬剤師  
鈴木 乃里佳

そごう薬局 横濱ゲートタワー店は  
2022年1月に開局しました。オフィ  
スビル内の薬局で、ビル内には内科、  
メンタルクリニック、婦人科が入る医  
療モールがあり、また横浜駅から徒歩  
6分の立地となるため、さまざまな処  
方箋を応需していますが、比較的若い  
患者さんが多いのが特徴です。

ビル内のメンタルクリニックでオン  
ライン診療を実施されており、その  
患者さんについてオンラインでの服薬  
指導を行っています。うつ病治療中の  
患者さんでは副作用も多いのですが、  
オンライン服薬指導であれば予約制で  
時間枠も決まっているため、患者さん  
をお待たせすることがなく、ひとりの  
患者さんにじっくりと時間をかけてお  
話ができるというメリットがあります。  
また治療中に遠方の実家に戻られた患  
者さんについても、オンラインで診療、  
服薬指導を継続して実施することがで

きています。  
当薬局はオフィスビルの中にあるこ  
とで若い患者さんが多く、OTCのニ  
ーズも高いので、今後は治療のみならず、  
健康増進についても気軽に相談できる  
ような薬剤師を目指したいと思っています。



個室でのオンライン服薬指導の様子



横浜南・湘南ブロック  
ブロック長  
山田 託也

オンライン診療、オンライン服  
薬指導が普及すると、遠方の患者  
さんにも継続して対応することが  
可能となりますが、一方で地域の  
患者さんが他の薬局でかかりつけ  
になることも考えられます。服薬  
中の電話フォローアップやトレ  
ーシングレポートなどを充実し、距  
離に関係なく患者さんをつかり  
フォローできるような体制を作  
り、患者さんにファンになってい  
ただけのような薬局を目指すこ  
とが必要だと感じています。



# そごう薬局 梅田北店



そごう薬局 梅田北店  
RCS  
原 陽子、山下 郁子

そごう薬局 梅田北店では、RCS※1  
と呼ばれる事務スタッフを中心に、新型  
コロナウイルス流行前から薬局の2階で  
「血糖値を測る会」を定期的に開催して  
いました※2。さまざまな食材を食べて  
いただいて食前食後の血糖値を図り、食事に  
よる血糖値の変動を実感していただくイ  
ベントで、食事と健康にまつわる話題提  
供も行っていました。毎回10名程度の方  
に参加いただき、非常に好評だったので  
すがコロナの影響で開催できなくなりま  
した。参加者はご高齢の方も多く、コロ  
ナの影響で外出もままならない状況と  
なっていたため、せめて画面上だけでも  
これまで築いてきた繋がりを保つことは  
できないかと考え、オンラインで健康相  
談を開催することに踏み切りました。最  
初はZoomの使い方を教えることから  
のスタートで苦労も多かったのですが、  
参加者の方からは、おかげさまで孫と

もZoomで話をする事ができた、な  
ど思いがけない喜びの声もいただき、こ  
の取り組みを始めて本当に良かったと  
思っています。

オンライン健康相談会はこれまでに9  
回開催し、毎回8～10名程度の方にご参  
加いただいています。最初はRCSだけ  
で始めたのですが、現在は薬剤師の方  
にもご参加いただき、役割分担をして、お  
話をしています。一つのテーマで6店舗  
の薬剤師、RCSが同時に参加して開催  
したこともあります。場所の制約を受け  
ない、オンライン開催ならではのメリッ  
トで、店舗の垣根を超えた横の繋がりを  
実感することができました。オンライン  
のツールとしてはZoomだけではなく  
公式LINEも活用し、次回開催のご案内  
をしたり、薬剤師と栄養士から月に2  
回健康情報・栄養情報を発信するなどし  
ています。健康相談会の様子は終了後に  
別途録画したものを店頭でも流しており、  
少しでも多くの方に興味を持っていただ  
ければと考えています。

今後は地域での連携を念頭に、薬局の  
中だけではなく外に出て行政や地域団体  
との連携を強化し、この活動を少しでも  
広げていきたいと思っています。



オンライン健康フェアの準備～実施中の様子

## オンライン健康相談会の実施テーマ

1回目	「エッ、角砂糖〇個分?!～知らないと怖い夏の水分補給～」
2回目	「本物のジュースはどれだ!?!」「マヨネーズの罠」
3回目	「漢方」
4回目	「知って得する!塗り薬・貼り薬の知恵袋」
5回目	「花粉に 立ち向かえ!～花粉症 虎の巻～」 「伸ばそう健康寿命～めざせピンピン・キラリ☆」
6回目	「意外と知らない?!薬局とお薬のマメ知識」
7回目	「たかが便秘、されど便秘～腸活で増やそう善玉菌～」
8回目	「乾燥肌注意報～コツをつかんでめざせ若見え～」
9回目	「薬局的☆防災のススメ」

※1 RCS (ラウンドケアスタッフ) : 保険請求業務のみならず待合室における患者サ  
ビス全般を主として担当するスタッフ

※2 「血糖値を測る会」の詳細についてはAPO Letter 78号をご参照ください



そごう薬局 梅田北店  
大阪府 大阪市北区中崎1丁目 1-1  
TEL : 06-6131-1701  
FAX : 06-6131-1702  
(開局日)  
月～土 (祝日を除く)  
(開局時間)  
月～金 9:00～18:00  
土 9:00～13:00

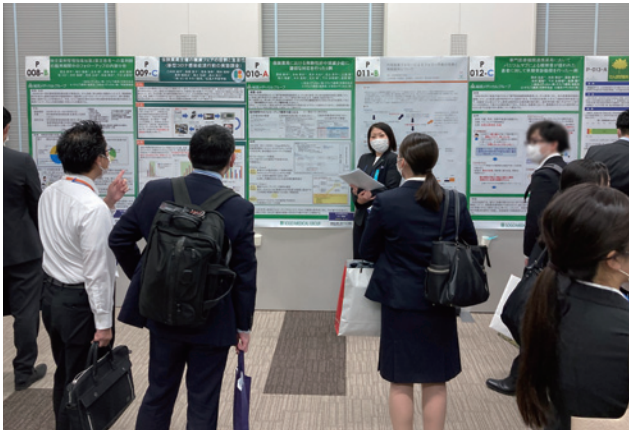


ポスター発表演題

第16回日本薬局学会学術総会での  
ポスター発表23演題についてご紹介します。

演題名
1 デバイス毎の吸入指導評価表を用いた吸入指導が患者の理解度に与える影響について
2 フットケア指導士と連携した健康イベントの活動報告
3 エルデカルシトール服用患者に対する薬剤師の介入による高カルシウム血症の早期発見・早期対応
4 抗悪性腫瘍薬に対するツールを用いた服薬フォローアップ～副作用の早期発見・早期対応を目指して～
5 乳幼児保護者への動画をういた服薬補助指導の取り組み
6 月経前症候群・月経前不快気分障害患者の月経に伴伴する症状に関する生活習慣改善支援の取り組み
7 薬局事務スタッフによる手洗一手技指導の取り組み
8 専門医療機関連携薬局のかかりつけ薬剤師にできること～がん患者のバッドニュースに寄り添った事例について～
9 保険薬局における発熱性好中球減少症に対して適切な対応を行った1例
10 特定薬剤管理指導加算2算定患者への薬剤師の服用期間中のフォローアップの内容分析
11 専門医療機関連携薬局においてパニツムマブによる眼障害が疑われた患者に対して早期受診勧奨を行った一例
12 医薬品リスク管理計画 (RMP) の情報を活用した副作用モニタリングの充実を目的とした取り組み

演題名
13 処方提案型トレーシングレポートの記載内容と受諾可否との関連について
14 医薬連携におけるレンパチニブメシル酸塩服用期間中の電話フォローアップの課題と有用性の検証
15 保険薬局における糖尿病患者へのインスリン手技確認による課題の抽出
16 点眼薬の使用手技実態調査～点眼薬の適正使用を目指して～
17 患者ニーズに対応したヘルスケア手帳と電話フォローの有用性
18 新型コロナウイルス感染拡大時における薬局業務負担の変化の実態調査について
19 薬物動態学的に大きな影響を及ぼす併用注意薬剤の安全使用を目的とした取り組み
20 臨床検査値の活用に関する薬剤師の理解度調査
21 来局女性への妊娠・授乳の聴取に対する薬剤師の抵抗感を減らすための取り組み
22 糖尿病患者における薬剤使用期間中の患者フォローアップ実態調査
23 自宅での看取りを希望された終末期がん患者のQOL維持に保険薬局薬剤師として貢献できた1例



第16回日本薬局学会学術総会  
変革への挑戦 ～未来の医療を支えるために～

開催日：2022年11月5日(土)・6日(日)

2022年度の日本薬局学会学術総会は、「変革への挑戦」をテーマに、10年ぶりに総合メディカル(株)が大会長・実行委員会社となり開催されました。ここでは、最優秀賞を受賞した演題とポスター発表演題を紹介します。



最優秀賞演題

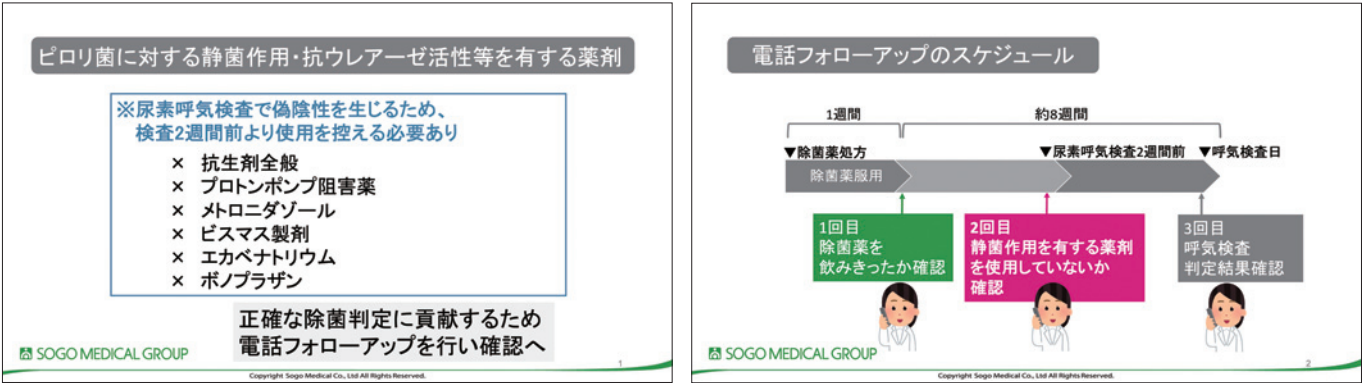
ピロリ菌除菌療法後の尿素呼気検査  
偽陰性を防ぐための電話フォローアップ

演者  
そうごう薬局 新倉敷店  
湊 菜月子  
共同演者  
そうごう薬局 新倉敷店  
三宅 里奈 宮本 慶子 岡野 泰子

発表概要

ピロリ菌除菌療法後に行う除菌確認のための尿素呼気検査においては、検査2週間前より抗菌薬やPPI等の服用を避けなければ、除菌されていないのに陰性を示してしまう「偽陰性」となる可能性があります。そこで、新倉敷店では除菌療法後の服薬確認と、検査2週間前の注意薬の確認を行うため、2020年より電話フォローアップを行っています。今回の発表では、取り組みによる成果をまとめ、報告しました。

今回の取り組みを行ったことで、2件の患者さんについて呼気検査結果が偽陰性となる可能性を防ぐことができました。また、PPIの中止指示がでている患者さんに対して電話フォローアップを行い、中止忘れを未然に防ぐことができた事例もありました。一方で9名は薬剤使用の確認ができず、また、静菌作用を有する薬剤を点滴で施行された場合には薬剤名を聞き出せない可能性があることが分かりました。このことから、正確な除菌判定の支援を徹底するためには、他の医療者にも静菌作用を有する薬剤使用の注意を共有できるようにする必要があったと考えました。





## タヨリスの主な機能

1



### お薬手帳機能

処方薬や市販薬などの「薬の記録」のみならず、個々の患者さんと薬剤師が直接つながる「フォローアップメッセージ機能」を搭載。患者さんとのコミュニケーションの充実を図り、フォローアップ体制を強化します。

2



### 来店予約・オンライン服薬指導機能

「処方箋事前送信」やご自宅や職場にしながら薬剤師からお薬の説明を受けることが可能な「オンライン服薬指導機能」を搭載。お薬の「配送」まで可能です。電子処方箋にも対応しています。

3



### お薬アラーム機能

「薬単位」で服薬アラームをセットすることができ、「薬を飲む」シーンではそれらがタイムラインで表示されることで高い視認性を実現。また、処方薬だけでなく、市販薬やサプリも管理できます。

4



### 健康管理機能

歩数・体重・体温・血圧などのバイタル値の記録が可能。重症化予防のための健康相談やOTC（市販薬）推奨販売など、データを活用した専門性や安心感を発揮します。

5



### お買い物

「そうごう薬局e-shop」でのお買い物が可能です。プライベートブランド「SOGO SMILE」商品や医薬品、健康食品などを取り扱っています。

## 「タヨリス」のダウンロードはこちらから

- [Android]、[Google Play]は、Google Inc.の商標または登録商標です。
- iPhoneはApple Inc.の商標です。
- iPhone商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- App Storeは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標または登録商標です。



## 総合メディカル公式アプリ「タヨリス」サービス開始!

オールインワン ヘルスケアアプリ

# タヨリス

総合メディカル株式会社は、「頼られる専門性」「喜ばれる安心感」「生活に寄り添う利便性」の提供をコンセプトとした、公式ヘルスケアアプリ「タヨリス」のサービスを2月6日より開始しました。

第一弾として、服薬管理及び薬剤師によるフォローアップが可能な「お薬手帳機能」や、処方箋の受付からお薬のお届けまで一気通貫で対応できる「オンライン服薬指導機能」などを搭載し、今後さらなる機能拡充を予定しています。



### 頼られる専門性

お薬や病気から健康サポートまで、みなさまの個々に合った治療を専門の薬剤師がご支援します。

### 喜ばれる安心感

安心、安全で健康な生活のために病気やお薬、健康、介護に関することなどを気軽にご相談いただけます。

### 生活に寄り添う利便性

待ち時間の短縮、オンライン服薬指導、キャッシュレス決済など、便利にお使いいただけます。



## vol.84

2023年5月発行 発行／総合メディカル株式会社  
〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名2丁目9-23  
薬局事業本部 TEL：092-713-7061

